

## 平成29年度 「学校自己評価」傾向と分析

柏市立大津ヶ丘中学校

## 1 はじめに

生徒、保護者をほぼ同項目で学校自己評価を行いました。また、別項目で教職員による学校運営自己評価を行いました。

この評価結果及び分析結果を本校では、ホームページと学校便り等で公開しております。そして、「自己評価」のねらいは、今後の課題を明確にし、重点目標を検討し、目標を明確にすることにあります。結果を受け止め、全職員で今後の課題を共通理解し次回の結果で成果が表れるようにしています。

## 2 学校評価アンケート結果（全17項目）大変良い・良い（％）

生活面		生徒	保護者	教職員
1 学校生活を楽しく送っている		91.1	90.6	91.1
2 社会や学校のルール・マナーを守っている		94.1	90.1	47.1
3 思いやりを持って人と接している		92.5	89.9	73.5
4 目標を持って生活している		82.9	67.1	50.0
5 物事を粘り強く取り組むことができる		79.8	60.3	26.5
6 みんなと協力して活動することができる		89.0	90.1	79.4
7 積極的に部活動や委員会活動に取り組んでいる		85.2	86.5	79.4
8 教師は生徒理解に努めている		80.3	77.7	88.3
学習面		生徒	保護者	教職員
1 集中して授業に取り組んでいる		89.4	66.8	58.8
2 家庭学習によく取り組んでいる		68.2	48.7	11.8
3 課題や学習用具を忘れない		78.4	61.8	11.8
4 教師のわかりやすい授業展開・生徒の授業理解		73.5	44.1	32.4
5 教師は一人ひとりの学習支援をしてくれている		78.6	58.9	55.9
重点項目(生徒)	公開・地域・環境(保護者・教職員)	生徒	保護者	教職員
1 清掃への取組	保護者会・便り・ホームページで提供	88.6	88.1	97.0
2 時間を守る	授業参観や行事の公開	90.1	92.8	91.2
3 進んで挨拶	地域・保護者との連携	86.2	82.0	94.1
4 歌声活動	環境整備・清掃が行き届いている	82.1	88.4	70.6

<生活面分析>

・楽しく学校生活を送っているは共通しているが、ルールやマナーの遵守や目標をもった生活、粘り強さへの取り組みなどは差が大きい。

<学習面分析>

・家庭学習は生徒はやっているつもりでも保護者・教師は物足りなさを感じ、さらにやることを望んでいる。課題や学習用具も差が大きい。授業展開や授業理解も差が大きい。

### 3 次年度の重点項目

生徒、保護者、教職員の評価アンケートより、三者共通の課題を探り、以下のようなことがあげられます。

(1) 社会や学校生活の規範意識醸成と遵守、目標をもった生活の充実を図る。

- ・目標を明確にし、規範意識の高揚と粘り強さの構築を図る。
- ・教師の指導力向上、道徳教育と清掃活動の充実。
- ・授業教具の忘れをなくするための指導と家庭との連携。

(2) 教師のわかりやすい授業実践と生徒理解に努める。

- ・教師の授業力アップ、魅力ある授業づくり、教育相談の充実。
- ・授業の工夫・ICT活用、アクティブラーニングの実践

(3) 家庭学習の計画的な取り組み

- ・計画的に全校統一の取り組みを行う。(家庭学習ノート作り)
- ・教師による評価の統一性と共通理解。

### 4 重点項目の具現化

#### (1) 規範意識の醸成遵守と目標の明確化

- ①授業の約束の徹底を図り、自分たちでいい授業を作り上げる。(全校統一)
- ②朝の会で1日のめあてを立てさせ、帰りの会で反省させ、自己評価をするとともに互いに高め合う、自治的な取り組みを充実させる。(学年統一、会活動の充実)
- ③授業時間の厳守をし、時間に始めて時間に終わる。2分前着席の厳守。(全校統一)
- ④清掃活動を充実させ、教室環境を整え、落ち着いた雰囲気を作る。(全校統一)
- ⑤全教職員が同じ指導を繰り返し行う。(全職員)

#### (2) 教師のわかりやすい授業と生徒の授業理解

- ①研修活動に積極的に取り組む(全職員)
- ②めあてを提示し、毎日の授業の流れがわかるようにし、まとめを必ず行う。(全職員)
- ③少人数グループでの学習を取り入れる。(全職員)
- ④ICT活用を積極的に行い、視覚・聴覚からの指導を取り入れる。(全職員)
- ⑤学び合い学習や表現活動を積極的に行う。(全生徒)

#### (3) 家庭学習の計画的な取り組み

- ①家庭学習の手引きを活用し、課題に取り組ませる。
- ②教育相談を活用し、家庭学習状況の確認を行う。(学級担任)
- ③家庭学習ノートの提出・点検。(学級担任及び副担任)
- ④躰きのある生徒へのアドバイス。(学級担任と教科担任の連携)
- ⑤評価の実施(学級担任)
- ⑥「eboard」の活用を推進する。